

災害に強いまちへ

防災体制の拡充に向けても取り組み、地域防災拠点整備事業として小学校と総合公園に100tの飲料水兼用耐震性貯水槽と50㎡の防災倉庫を設置し、地区防災拠点となる公園等の公共施設に、10㎡の防災倉庫を設置しています。

災害時には、迅速で正確な情報が必要とされるため、防災行政無線の整備や戸別受信機の設置やあしや防災ネットの普及活動を行い、災害時の情報発信手段の多様化に努めてきました。

東日本の大震災を受けて、津波対策も進めてきました。公共施設に加え民間のかたがたの協力を得て、津波一時避難施設の協定締結を進めてきました。また、避難の目安にするため、主要道路の交差点に標高表示板を設置しました。

市民の皆さんの自主防災組織も拡充され、日頃より熱心な防災活動が行われています。

今後も、市民の皆さんに参加していただいている防災総合訓練や緊急地震速報訓練等を通じて対策を講じてまいります。

震災は、非常につらく悲しい経験でしたが、得られた教訓を継承し、未来につながる災害に強いまちづくりに生かしていきましょう。



【津波一時避難施設】津波から命を守るために、市内の民間施設等と協定を結び津波一時避難施設を35カ所設置しました。



【標高表示板】東日本大震災での教訓を生かし、日頃からお住まいの地域の標高が一目でわかるよう、市内の主要幹線道路を中心に標高表示板を30カ所設置しました。



【防災行政無線】市民の皆さんに災害情報を一刻も早く知らせるため、平成21年度に防災行政無線の放送を開始しました。



【防災倉庫】阪神・淡路大震災後に設置を進めてきた防災倉庫は41カ所になりました。自主防災会を中心に地域での防災訓練に使用するなど積極的に活用されています。



【自主防災会による防災訓練】阪神・淡路大震災後に設立した自主防災会は64団体となり、地域で防災訓練を行うなど積極的に活動を行っています。また、地域の防災訓練では、自主防災会を中心に多くの団体が合同で行う訓練も多くなり、自動車を共助へと地域の力によって防災への取り組みを行っています。

阪神・淡路大震災から20年を迎えて

阪神・淡路大震災の概要 《地震の概要・避難所の状況・その他》

出典：「阪神・淡路大震災 芦屋市の記録 '95～'96」

■地震の概要	
発生日時	平成7年1月17日(火)午前5時46分
震源地	淡路島北部(北緯34度36分、東経135度02分)
地震の規模	マグニチュード 7.3
芦屋市の震度	震度7 * 2月7日、気象庁の現地調査の結果、国道2号沿い・JR芦屋駅周辺・三条町・山手町の一部が、震度7とされました。

■避難所の状況			
月日	避難所数	避難者数	避難世帯数
1月17日	47カ所	12,916人	5,045世帯
1月19日*	52カ所	20,960人	8,188世帯
1月31日	53カ所	8,912人	3,481世帯
2月28日	49カ所	4,254人	1,662世帯
3月31日	41カ所	2,287人	893世帯
4月30日	32カ所	1,019人	398世帯
5月31日	2カ所	88人	49世帯
6月18日	1カ所	6人	3世帯
累計	5,431カ所	558,940人	218,334世帯

【避難所の開所から閉鎖】平成7年1月17日～7月9日

- 2月5日 給食開始(全避難所での開始は2月11日～)
- 2月23日 プライバシー対策として、ついでを導入
- 4月14日 避難所集約(民間施設等12カ所閉鎖)を通知
- 5月18日 避難所第二次集約(11カ所廃止)
- 5月24日 市内避難所・6月上旬に閉鎖を決定
- 5月28日 避難所を集約し、2カ所(126人)となる
- 6月7日 避難所1カ所となる
- 6月14日 6月18日に、避難所閉鎖することを決定
- 7月9日 避難者全員退出

(*印は、避難者数のピーク時) ※上記の「避難世帯数」は推計です。 ※避難所数のピークは、1月24日の55カ所(避難者数16,134人)

【その他】

- 応急仮設住宅 市内47カ所・2,914戸を建設(引渡し日・2月7日～5月8日)
- 仮設トイレ設置 176カ所・1,055基
- 仮設浴場の設置 11カ所

定点撮影で見る芦屋市内の風景



平成7年 平成26年



平成7年2月26日 県立芦屋南高校体育館では「合同慰霊祭」がしめやかに行われました。

市内全域で、水道・下水道・通信・電気・ガス等のライフライン施設も大きな被害を受け、芦屋市の埋立地区では液状化が生じ、応急活動や日常生活に大きく支障をきたしました。全市民的に被害を受けたため、多くのかたが長期にわたり避難所で生活し、その後も応急仮設住宅での不自由な生活を強いられました。そのような中で、被災されたかたがたで共に助け合い支えあつてきましたが、全国からの支援やボランティアのかたがたに、大いに助けられました。



復興へ

復興へ

平成7年7月には、「芦屋市震災復興計画」を策定し、復興に取り組みました。中央地区や西部地区の土地区画整理事業や若宮町の整備事業により、コミュニティ道路や公園の整備を進めてきました。また、延焼遮断帯ならびに地域幹線道路として、山手幹線整備に取り組み、平成22年に全線開通しました。

このようにして、市民のかたがたが一体となつて、災害に強いまちへと復興を進めてまいりました。

復興へ

平成7年7月には、「芦屋市震災復興計画」を策定し、復興に取り組みました。

中央地区や西部地区の土地区画整理事業や若宮町の整備事業により、コミュニティ道路や公園の整備を進めてきました。

また、延焼遮断帯ならびに地域幹線道路として、山手幹線整備に取り組み、平成22年に全線開通しました。

このようにして、市民のかたがたが一体となつて、災害に強いまちへと復興を進めてまいりました。

復興へ

平成7年7月には、「芦屋市震災復興計画」を策定し、復興に取り組みました。

平成7年1月17日午前5時46分、淡路島北部北緯34度36分、東経135度02分、深さ16kmを震源とするマグニチュード7.3の地震が芦屋市を襲った。この地震は、内陸で発生したといわれる直下型となり、破壊された断層付近で非常に大きな揺れを生じさせ、阪神地域から神戸市および淡路島北部に甚大な被害をもたらした。芦屋市においても地震発生直後、一瞬のうちに木造家屋を中心に多くの建物が倒壊し、鉄骨造、鉄筋コンクリート造等の建物も一部倒壊するなど大きな被害が発生しました。早朝の発災であったため、就寝中のかたが倒壊した建物や家具などの下敷きになるなど、多数の死傷者が出ました。

震災の記憶

市内全域で、水道・下水道・通信・電気・ガス等のライフライン施設も大きな被害を受け、芦屋市の埋立地区では液状化が生じ、応急活動や日常生活に大きく支障をきたしました。全市民的に被害を受けたため、多くのかたが長期にわたり避難所で生活し、その後も応急仮設住宅での不自由な生活を強いられました。そのような中で、被災されたかたがたで共に助け合い支えあつてきましたが、全国からの支援やボランティアのかたがたに、大いに助けられました。

復興へ

平成7年7月には、「芦屋市震災復興計画」を策定し、復興に取り組みました。

中央地区や西部地区の土地区画整理事業や若宮町の整備事業により、コミュニティ道路や公園の整備を進めてきました。

また、延焼遮断帯ならびに地域幹線道路として、山手幹線整備に取り組み、平成22年に全線開通しました。

このようにして、市民のかたがたが一体となつて、災害に強いまちへと復興を進めてまいりました。

復興へ

問い合わせ
企画課 ☎38-2127/防災安全課 ☎38-2093
広報国際交流課 ☎38-2006

阪神・淡路大震災 芦屋市被害一覧

出典：「阪神・淡路大震災 芦屋市の記録 '95～'96」

区分	被害	備考
人的被害	死者	444人
	行方不明	0人
	負傷者	3,175人
避難者	避難者	20,960人
	避難所	52カ所
建物被害	全壊	4,722棟
	半壊	4,062棟
	一部損壊	4,786棟
	地震火災	13件
公共土木施設等被害	道路	47,410m
	橋梁	12カ所
	河川	2カ所
	海岸施設	8カ所
ライフライン等被害	公園	33カ所
	水道	直後に全域で停止
	下水道管渠	277カ所
	下水処理場	直後に処理機能停止
その他	電話	9,200回線
	電気	直後に全域で停電
	ガス	直後に全域で停止
	鉄道	直後に広域的に不通

1月後半 CATV 広報番組ガイド

芦屋市広報番組 あしやトライあぐる

オープニング	山手緑地	① 9:00
トピックス	展示会「光の空 阪神・淡路大震災から20年 芦屋冬の通常展」	② 12:00
	「あの日」から20年	③ 15:00
	「阪神大震災の記録」	④ 18:00
特集	阪神・淡路大震災から20年 伝えて繋げる 芦屋高校ボランティア部	⑤ 22:30
お知らせ	第51回モンテペロ市学生親善使節を募集	※DVDの貸出可
エンディング	芦屋の四季	

■広報番組「あしやトライあぐる」は、11ch(一部地域を除く)でご覧ください。
■番組に関する問い合わせ 広報国際交流課 ☎38-2006 ■CATV全般に関する問い合わせ J-COM神戸芦屋カスタマーセンター ☎0120-999-000

谷崎潤一郎記念館の催し

【谷崎館講座】花の宿に学ぶ茶花

■日時 2月4日(毎月第2水曜日)/2・3月は第1水曜日/5・7・8・10月は休講)午後1時～4時 ■会場 講義室

■内容 素朴な野の花の美しさをありのままに生かした茶花は、暮らしの中に静けさとゆりの時間を生み出してくれます。兵庫・有馬の閑静な「花の宿」の主人が、初心者にもていねいに指導します ■定員 9人 ■講師 高山荘・華野主人・駿川武志氏 ■受講料 1回3,000円・花材費5,000円 ■申し込み 1週間前までに下記へ

《観覧料》一般300円 大・高生200円
《開館時間》午前10時～午後5時(入館は4時30分まで) 《1月の休館日》19日・26日(月)

問い合わせ 谷崎潤一郎記念館 ☎23-5852
(〒659-0052 伊勢町12-15)

美術博物館の催し

展示会「土器で芦屋の物語 一遺跡が語る芦屋の歴史」関連イベント

●学芸員によるギャラリートーク
■日時 2月1日(日)午後2時～ ■会場 展示室 ■参加費 要観覧料

「ART MARKET あしやつくる場」(旧アートパザール) 出店者説明会
■日時 2月15日(日)午前10時30分～正午 ■会場 体験学習室 ■内容

■日時 2月2日(土)・3日(日)に開催する「ART MARKET あしやつくる場」の出店者向けの説明会 ■申し込み 2月14日(土)までに電話で下記へ ※ご自身で作られた物の販売に限る。骨董・リサイクル・古着などの既製品や食品は販売できません。作者ご自身またはグループで店頭販売が原則です。

《観覧料》
一般500/400円・大生300(240)円、中学生以下無料 ※()内は20人以上の団体料金※高齢者(65歳以上)および身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちのかたならびにその介護のかたは各当日料金の半額
《開館時間》
午前10時～午後5時(入館は4時30分まで) <1月の休館日> 19日・26日(月)

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432(〒659-0052 伊勢町12-25)

第55回ふれ愛シネサロン 人権啓発映画会

「ひまわりと子犬の7日間」

「命の期限日」を前にした1匹の母犬。その命を守るため1人の父親。信じる想いが、愛と希望をつなぐ(7日間の軌跡)宮崎県で起きた実話をもとに映画化されました。～あなたも大切な人と心をつないでみませんか～

■日時 1月29日(木) <2回上映> 30分前開場)①午前10時～11時49分②午後1時30分～3時19分
■会場 消防庁舎3階多目的ホール ■定員 先着200人(各回100人) ■出演 堺雅人・中谷美紀・でんでん・若林正恭・吉行和子ほか

問い合わせ 人権推進課 ☎38-2055

「好きなまちで仕事を創る！」

～震災・復興から考えるこれからのコミュニティ～

■日時 1月29日(木)午後6時30分～
芦屋市商工会館2階会議室 ■定員 先着30人
■申し込み 下記へ

《講師プロフィール》田村 太郎氏
復興庁・復興推進参与 一般財団法人ダイバーシティ研究所代表理事
兵庫県生まれ。1995年、阪神・淡路大震災で被災した外国人への情報提供を機に「多文化共生センター」を設立。「神戸復興塾」事務局長として、復興に携わる。2004年、社会企業家をめざす若者のためのビジネスプランコンペ「Edge」を立ち上げる。2007年には「ダイバーシティ研究所」を設立し、人の多様性に配慮のある地域や組織づくりに取り組んでいる。甲南女子大学・関西学院大学で非常勤講師(社会企業論)。共著『企業と震災』がないで支える『好きなまちで仕事を創る』など。

田村太郎氏

問い合わせ 経済課 ☎38-2033/☎38-2176